

新医学系指针对応「情報公開文書」改訂フォーム

研究協力のお願

昭和大学病院では、下記の臨床研究（学術研究）を行います。研究目的や研究方法は以下の通りです。この掲示などによるお知らせの後、臨床情報の研究使用を許可しない旨のご連絡がない場合においては、ご同意をいただいたものとして実施されます。皆様方におかれましては研究の趣旨をご理解いただき、本研究へのご協力を賜りますようお願い申し上げます。

この研究への参加を希望されない場合、また、研究に関するご質問は問い合わせ先へ電話等にてご連絡ください。

心不全と肝うっ血の組織学的関連 —心臓肉眼形態と肝臓病理組織像の比較—

1. 研究の対象および研究対象期間

2012年から2022年までに当院臨床病理診断科において病理解剖を施行された方

2. 研究目的・方法

心臓の機能が低下している状態（心不全）では血流が肝臓にうっ滞して、うっ血肝を伴い、長く持続すると肝臓に線維化を生じて、いわゆる「心臓性肝硬変」となり全身状態に深刻な影響を及ぼすことがあります。うっ血肝では肝臓内に広く分布する「類洞」という血液の通り道に浮腫をきたし、血液がスムーズに流れず、肝細胞に十分な酸素供給ができなくなり、肝細胞が壊死し、そのあとの再生を妨げ、線維化を来すと考えられていますが、心不全の程度と肝臓の変化（線維化の程度）の関係は必ずしも明らかにされておらず、比較的経過の長い心不全であっても肝臓の線維化の程度は様々で、予測が難しい状況です。本研究では、病理解剖の心不全症例を用い、心臓の肉眼的な形状変化と肝臓の組織学的変化を比較して、心不全の心臓の形態変化と肝臓の線維化の程度を明らかにするものです。心臓は房室弁輪の大きさや心房・心室の大きさなどを評価し、肝臓は線維間質の変化を特殊染色（マッソントリクローム染色など）で評価して、心臓の形態と肝臓のうっ血・線維化の関係の解明を目指します。病理標本作製および画像解析機器による画像の取り込みおよび解析を昭和大学医学部法医学講座と臨床病理診断学講座で共同で行います。

本研究は学術研究であり、入院されていた患者さんのデータを利用します。患者データは病院内の診療録管理室にて「9. 診療録等の調査項目」に記載した情報を取得します。取得した情報は、本研究者間のみ情報を共有します。診療情報の利用に伴う同意取得の方法：院内掲示又はホームページによるオプトアウトを行います。研究概要（研究目的・調査内容等）を適切に通知・公開し、診療録情報の利用について適切な拒否の機会を提供します。

研究期間

医学研究科 人を対象とする研究等に関する倫理委員会承認後病院長の研究実施許可を得てから

2023年3月31日まで

3. 研究に用いる試料・情報の種類

病理解剖検体（病理解剖ホルマリン固定標本、病理解剖ホルマリン固定パラフィン包埋ブロック、病理解剖ガラス標本）、病理解剖診断に付随する資料（病理解剖番号、病理解剖申込書、病理解剖報告書、病理解剖プロトコル(所見記載用紙)、検体肉眼画像、検体組織画像など）と生前の情報（カルテ番号、年齢、性別、身長、体重、診断病名、既往歴、現病歴、併用薬）、臨床検査結果（血液・生化学検査結果、X線、MRI、超音波検査画像）

4. お問い合わせ先

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

所属：昭和大学医学部法医学講座 氏名： 松山 高明

住所：東京都品川区旗の台 1-5-8 電話番号： 03-3784-8140

研究責任者： 松山 高明